

向井信夫先生御履歴

(履歴)

大正 5 年 10 月 5 日 浅草に誕生。

昭和 15 年 鉄道局書記に入職。数年後に鉄道局を辞し、中国北京の華北交通に勤務。北京に向かわれる時に、木箱に入れられた書物の保管を依頼し、留守宅の御家族は戦争中、空襲がある度に他の物は顧みずにこの木箱をまず防空壕に入れて守られた由。

北京では信夫先生は万葉集（和本）のコレクターとなられ、かなりの分量の貴重な和本を集めておられた。これが和本収集の始まりとなる。

昭和 19 年 北京で御結婚。翌月に出征。

昭和 20 年 第二次世界大戦の敗戦により、収集していた和本類はすべて、個人の持ち物としての分量とは思えないという名目で没収される。

また、信夫先生は敗戦後、そのまま捕虜としてソ連に抑留される。

昭和 21 年 日本に戻られ、大日本図書に入社。

日本に戻られてからすぐに和本の収集が再開され、その対象は江戸戯作となっていた。その習慣はそれ以後ずっと続く。

昭和 38 年 新宿区の御自宅を改装し、書斎を書物を入れるために特別仕様とされる。なお、向井家ではその後も増築を繰り返し、和本と書物、レコード類は、玄関脇の 10 畳大の書斎、次の間の 3 畳大、続く奥の間の 4.5 畳大の計 3 部屋にびっしりと置かれた。

お仕事は大日本図書の営業部長、中央本社、中央社などで勤務を続けられ、昭和 62 年に退職。

以後、ご自宅で和本三昧の生活を送られ、望む者にご所蔵の和本を惜しげもなく見せ、また広範な江戸文学に関する知識を元に、多くの研究者を助け、育てられた。

平成 5 年 4 月 20 日 4 月に胃癌が見つかり入院。11 月 6 日 御逝去。享年 77 歳



向井信夫先生



向井家書斎（草双紙）



向井家書斎（読本）